

日本農業気象学会 2006 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2006 年 12 月 7 日 13 時～17 時

場 所：東京大学農学部 7 号館 A 棟 717 号室

出席者：清野，早川，青木，井上，大原，大場，大政，岡田，奥島，蔵田，小林，高見，
宮田，横山

欠席者：荊木，浦野，菅野，後藤，菅谷，田中，武政，長野，真木，山田

[配布資料]

- 1) 2006 年度日本農業気象学会第 1 回理事会議事録案
- 2) 学会誌定価の改定（案）
- 3) 庶務関係作業日誌
- 4) 農業環境工学関連 5 学会 2007 年合同大会開催案内
- 5) 東北支部活動報告（2006 年度）

I. 前回議事録の確認

日本農業気象学会 2005 年度評議員会議事録，同 2006 年度総会議事録，同 2006 年度第 1 回理事会議事録を承認。

II. 報告事項

- 2.1 会費等の値上げ等，学会の財政改革に係る広報
事務局案を承認。
- 2.2 会費値上げ通知
会計理事から提案の通知文案を了承。
- 2.3 学会誌発行スタイル変更に関わる広報
編集委員会案を承認。なお，HP の更新については情報委員会で検討中で，3 月公開予定。
- 2.4 編集委員会報告（小林委員長）
来年からの学会誌出版については，オリジナリティがある記事は「農業気象」に，
それ以外は「生物と気象」に，という方針で掲載誌を判断する。解説，講座などは，
「生物と気象」に載せる方針。電子化された「生物と気象」への掲載記事の
図等に関するオリジナリティ保護については，編集委員会で検討する。
- 2.5 学会賞等の推薦の依頼文
推薦書の様式は会誌ではなく，HP に掲載する。
- 2.6 日本農学会加盟学協会調査票の提出
評議員として清野会長，真木会員，運営委員として大原会員を届出。
- 2.7 外国人特別会員
2008 年以降は会誌送付を停止し，J-STAGE を閲覧するように促す。新たな外国人特別会員

を勧誘するため、会計理事から各理事に名簿を送る。

2.8 役員選挙

選挙管理委員から、メールで進捗状況の報告があった。

2.9 永年功労会員表彰委員長選挙

互選の結果、岡田委員が当選。

2.10 2006年合同大会事後処理報告

合同大会実行委員会から、剰余金を還付する旨の連絡があった。

合同大会担当の山田理事の任期を、2007年4月の理事会までとすることを了承。

2.11 2007年春季大会

井上、大場両理事より、準備状況が報告された。発表申し込み件数は69件（12月4日現在）。

2.12 2007年合同大会

青木理事より、準備状況が報告された。一部の学会のフェデレーションからの離脱により、大会名が「5学会2007年合同大会」となる。「生物と気象」12月号に開催案内を掲載し、その後は学会HPと学会誌「農業気象」の両方で広報を行う。

2.13 日本学術会議学協会の機能強化方策検討等分科会

アンケートが届いたら、総務理事が対応する。

2.14 退会届の様式

会則に届出が記されているが、これまでは様式が整っていなかった。会計理事が作成した様式（案）を承認。

2.15 支部大会報告

- 1) 東北支部大会（岡田理事）。従来、各県持ち回りで開催してきたが、県農業試験場関係の会員数の減少により、県主体の開催が難しくなっている。今回は盛岡で開催した結果、参加者数が増加し、大学院生等の新規参加者もあり、成功であった。
- 2) 関東支部大会（青木理事）。12月8日、つくば市で開催予定。企業による発表を予定している。
- 3) 北陸支部大会（横山理事）。11月11日に開催、参加者15名。
- 4) 近畿支部（高見理事）。12月8日に古川市で、東海支部と合同開催予定。中国四国支部大会（早川副会長）。12月14、15日に山口県で開催予定。
- 5) 九州支部大会（大場理事）。11月30、12月1日に沖縄で、生物環境調節学会、植物工場学会と共同で開催。参加者60名、発表30件。

2.16 庶務関係

- 1) 国際会議出席渡航費補助申請、2006年7月末締め切り分申請1件を承認、補助金支給済み。

- 2) 国際生気象学会（2008年9月）を協賛。
- 3) SHITA シンポジウム（2007年1月25日）を協賛。
- 4) 日本地球惑星科学連合第4回評議会（2006年10月12日）に鳥谷委員が出席。

Ⅲ. 審議事項

3.1 若手会員の理事登用

30歳代、40歳代の会員を次期の会長指名理事に登用し、現在の理事の役割にとらわれず、新たな活動をしてもらうという趣旨を承認。各理事から総務理事に、候補者名と担当業務を推薦する。

3.2 シルバー会員制度、終身会員制度

会計理事の調査によれば、名誉会員に準ずるタイプ、会員歴によるタイプ、一括納入タイプ、年会費ディスカウントタイプの各方式がある。事務局で具体案を検討し、理事会に提案する。

3.3 学会の将来方向と学会名の検討

新たに登用する若手理事を中心に行うこととする。

3.4 名誉会員の推薦

高倉会員を推薦することを了承。2007年の総会に提案する。

3.5 永年功労会員表彰審査委員会委員長

次回の委員長選挙当選者から、委員長の任期を現在の1年から2年にする方針を決定。2007年の総会に会則改正案を提案する。

3.6 会誌の販売価格

事務手続きが簡単なので、書店経由で購入している団体がある。「生物と気象」が電子化されるため、値上げは難しいので、販売価格は据え置きとすることを決定。

3.7 総会の開催時期

2007年春季大会は総会、理事会は開催しない。2007年合同大会時に総会を開催することを決定。

3.8 2008年春季大会

- 1) 2008年はフェデレーションとしての合同大会は開催されない。このため、山口大会は春季大会ではなく全国大会となる。したがって、「講演企画委員会」が実行主体ではなく、現地で組織する実行委員会が実行主体となる。ただし、従来のように支部主催というわけではなく、講演企画委員会が企画立案を行う。
- 2) 論文の出版については通常査読とし、会員外著者の扱いは講演企画委員会（編集委員会、大会実行委員会）で検討する。
- 3) 総会は全国大会時に開催するので、2007年総会から2008年総会までの期間が短くなる。混乱が生じないように、各委員会でスケジュールを検討する。

3.9 メールリングリストの整備状況

現在の登録者割合は60%弱（会計理事）。メールサービスへの登録の勧誘を継続する。他学会の例を参考にして、情報委員会で配信、登録方法等を検討する。

3.10 会員サービスの充実

HPを見られない会員への広報、英語版HPの作成などについて、引き続き検討する。

3.11 測器ガイドブック改定計画

青木理事（普及教育活動特別委員会委員長）より、測器ガイドブックの改訂版（Web版）の構想について説明があり、基本方針を了承した。学会誌の広告収入減を考慮に入れ、学会の財政に総合的にプラスになるような料金設定が必要なので、学会事務局を含めて早期に検討を行うこととする。

IV. 次回理事会

2007年4月4日13時から、東京大学で開催する。